

あいあいあい I eye 愛

2024 年
12 月号



(上)ファッド・アブセイフさん
(下)サイド・ジャンナンさん



10/22「戦禍のパレスチナを知ろう」学習会 会場のエル・ソーラ仙台大研修室は満席

生産者のためにも 人権無視の戦争に 反対の声を

理事 櫻井 洋子

「分離壁」を知っていますか？イスラエルがパレスチナ自治区領域を侵食しながら「分離壁」建設しているという事実を、私は恥ずかしながら昨年のあいコープの学習会で初めて知りました。中東問題というと、とかく理解し難いと思います。「お互いに攻撃し合っていてどっちもどちなのでは？」などと思っていた私にとって、現地ではイスラエルによるパレスチナへの暴力、支配、屈辱的行為が常であり、圧倒的にパレスチナの人々が我慢を強いられているというお話は、大きな大きな衝撃であり、関心を持ってこなかった自分を深く反省する機会となりました。

あれから1年。「パレスチナオリーブオイル」の販売元ATJ(オルター・トレード・ジャパン)の協力の下、現地のオリーブ生産者支援団体UAWC(パレスチナ農業開発センター)代表であるファッド・アブセイフさん、パレスチナ製品のフェアトレードに取り組むMGO(マウントオブグリーンオリーブ)のサイド・ジャンナンさんをお招きしての学習会が開催され、報道されないパレスチナの現状をお聞きすることができました。

戦禍の中、多くの農地が破壊されたが、それ以前からも日常的にイスラエル入植者が、イスラエル軍の保護を受けながら一方的にパレスチナ人に暴力をふるう、酷いときには殺害することもある、オリーブの木を焼かれる、切られる、そうやって畑を使えないようにしておきながら3年使われてない土地は取り上げてしまうという話を聞き、言葉を失いました。オリーブの木はパレスチナ人にとってのアイデンティティ、それを失う悲しみはいかばかりかと。目の前にいる現地の方に今のパレスチナの現状を聞いたことで、もう遠い国の事ではなくなったと感じます。参加者からの「私たちは何ができるか」の問いに、「パレスチナのことを思ってくれている人がいることで勇気がもらえる。関心を持ち続けて欲しい」との答えが。イスラエルの蛮行や国際法違反などを報道しない加害、無関心でいる加害。無意識のうちに加害者になっていることを胸に刻み、思いを寄せ続けていきましょう。

2月には、イスラエルで働くパレスチナ医師のドキュメンタリー「私は憎まない」の上映会も計画しています。

◆本紙8ページに緊急支援(寄付)募集のお知らせがあります。ご覧ください。

CONTENTS

- ▶天童トライりんごオーナー活動「収穫」…2
- ▶Wa!わぁ祭り 2024 開催…4-5
- ▶シャボン玉フォーラム in ひょうご報告会開催…7
- ▶ケアメイトが救急救命講座を受講…3
- ▶じゅんかん!「BMW 技術全国交流会」…6
- ▶生産者さんにあいに行こう「田尻エコ産産協議会」…8

天童オーナーりんご収穫完了

「来年もやっぺし」

やっぺし
（やっぺし）



天童果実同志会の生産者の協力の
下、3本のりんご（品種はふじ）の木をネ
オニコノイド系農薬（以下ネオニコ）不
使用でお世話してきたオーナー活動。集
大成とも言える「収穫」が11月16日に
行われました。収穫総量はおよそ450
キロ。これを産地のために出資したオー
ナーで分け合うことになりました。

天童果実同志会会長の片桐完一さん
の園地で初めてネオニコ不使用りんご
「やっぺしりんご」が栽培されてから12
年、虫害や自然災害、気候変動でますま
す過酷な条件になる中、あいコープ組合
員はそれでも挑戦を続ける選択をし、
園地に組合員が通うオーナー制も2年
目を終えました。3月の枝の剪定から参
加し、猛暑の中管理作業を体験し、もぎ
取るりんご一つ一つに喜びを感じます。



当日参加者は10家族24名



山々を眺め今年最後の交流会



約450キロのトライりんごを収穫

理事 鈴木 真奈美

各家庭のバケツの実りを計量！

「バケツ稲選手権」優勝者決まる

夏の猛暑対策からか学校や幼稚
園行事がこの時期に集中する中、
9家族が集まりました。はさま自然
村の菅原達徳さんが「土を見ると稲
の育ち方がわかる」とそれぞれの根
の状態を説明してくれました。

脱穀は、まず茎の数を数えて記
録してから、割り箸に稲穂を挟み、
しごくことでボウルにパラパラ：
とモミが落ちます。「こぼれてる
よ！拾って！」一粒一粒大事なモ
ミ、食糧としても、グラムを競う戦
いとしても（笑）。脱穀が終わったら
計量をして、粳摺り機にかけます。
パラパラと落ちてくると「これが玄
米だよー」。稲が食卓のお米になる
には、さらに精米をする必要があり
ます。お米は消費者のもとに届くま
でたくさん手間がかかる、それも

実感できました。

1バケツごとに収穫できたモミ
の重さで今年の上位3名が決定。
はさま自然村から賞品が手渡され
ました。1位の方は、夫が頑張っ
て育てたバケツが1位になって嬉し
い！「とても嬉しそう。3位と4
位の差はなんと1グラム！残念そ
うだったお子さんの顔が忘れられ
ません。ぜひ来年も参加してね。

バケツの中で繰り広げられた小
さな田んぼの世界が、農業のこと、
食のこと、自然環境のこと、様々
な気づきのきっかけとなりますよ
うに。参加者の皆さま、ここまで大変
お疲れさまでした！

理事 辻 朗子



割り箸を使った脱穀は、小さい
お子さん達も大活躍



収穫を祝って記念撮影！
入賞者にはお米のプレゼントもありました

いざ!というその時のために...

救命救急講習会を実施

今年初開催となるケアメイト向け救命救急講習会を、11月8日宮城野区中央市民センターにて、宮城野消防署の佐藤消防士を講師に迎え行いました。集団託児や個人宅ケアでの緊急対応として身につけておくことで、ケアの安全性を高めるとともに、ケアメイト自身を守ることもつながります。ケアの場面だけでなく、日常生活にも役立つ講習会となりました。

胸骨圧迫(心肺蘇生)やAED(自動体外式除細動器)の必要性等も



胸骨圧迫(心臓マッサージ)の練習。
けっこう力が要ります!



乳児サイズの人形も使って...

わかりやすく説明いただきました。乳幼児の胸骨圧迫や誤飲した時の対処の仕方も教わりとても勉強になりました。

今後もし必要な場面に出会った時には、今日の講習を思い出し、焦らず119番(消防署連絡)し、AEDの自動音声に従い動けると良いと思いました。そして身につけるためには繰り返し受講がとても大事だと感じました。

※今年度講習は2回に分けました。11月29日エルパーク仙台にて2回目を行っています。

ジョイケア事務局 阿部 陽子
土屋 法子

大郷ふゆ水田んぼ脱穀& ライスセンター見学

秋も深まった11月、稲刈り、天日干ししていた大郷交流田のひとめぼれの脱穀が行われました。昭和生まれの機械ハーベスタにみんなで稲を運び、どんどんと籾が袋に貯まります。はずし終わった藁と細かいクズは再利用されたり田んぼの土に戻されたりします。9月の暑さで倒伏してしまった稲穂からはすでに芽が出て葉を伸ばしています。生産者さんの西塚さんから昔はこれを苗として使うこともあったと聞き、昔の人は何も無駄にしないのだなと感動しました。



ハーベスタを使い、天日乾燥した稲を次々に脱穀していきます



機械でごみなどを選別・精米して...
ようやく玄米とご対面!「重いね~」

脱穀した籾を持ってライスセンターへ。機械があつという間に4袋半の玄米にしてくれます。選別に外れたお米も、米粉やみりんの原料、家畜の飼料など様々に利用されるというお話に、皆さん感心した様子でした。丹精込めて作られたお米は無駄にはできませんね!最後に大郷グリーンファーマーズの事務所で大郷産の新米を試食。もっちり甘いげんきまると、あつさりして後から甘いササニシキ、どちらも美味しいお米でまんま通信に載るのが楽しみです。

理事 佐藤 有子



みんなのかんたん 資源循環プロジェクト

— 第8回 最終回 —

地域で循環する資源こそ、この農業の窮地を乗り越える切り札だ！そう信じて「あいコープみやぎ地域循環型農業推進プロジェクト」が発足してから一年半。様々な学びの様子を連載でお届けしてきました。最終回では、11月12日〜14日に秋田県鹿角市で開催された全国から210名余りが集まった「全国BMW技術交流会」の様子をお伝えします。プロジェクトメンバーである生産者はもちろん、あいコープの理事と職員も参加しました。



講演する奥地拓生先生

大会2日目の基調講演は、京都大学の奥地拓生先生による壮大なスケールのお話。ミネラルと微生物の力で良い水を作り農業などに活かすBMW技術は、地球に生き物が誕生し循環してきた仕組みをモデルとしています。会場となった鹿角市にほど近い十



佐藤あきな理事から、全国のBMW技術協会の皆さんに委員会の活動を報告

和田湖が誕生したときの噴火が、大地の基礎となる岩石(ミネラル)を生み出し、微生物の力で土壌ができて、その恩恵を農作物という形で受けていることをお聞きしました。

この大地の力を活用せず安易に化学肥料を使うことが果たして農業の「技術」と言えるだろうか？というBMW技術協合理事長の伊藤幸蔵氏(米沢郷牧場代表)の開会挨拶と結びつき、奥地先生の講演が大変腑に落ちました。持続可能であるためには、預かったものを還すことが必要。力はどうにかするのではなく、大地と自然に身を委ねて生き、食べていくというBMW技術の理念に共感するお話でした。

講演後、あいコープの生産者である大郷グリーンファーマーズの西塚忠樹さんから、今回の資源循環プロジェクトの進捗として、私たちの生産者がそれぞれの土地に合った堆肥を作り始めて

いることが報告されました。また、石けん環境委員会の佐藤あきな理事が、組合員がまんま通信で購入できる生物活性水「BMしちごう」を、生活にどう役立てているかを聞き取ったアンケート結果や、委員会でのヘチマ栽培での実験結果について報告し、「組合員もBMW技術に興味を持ち、生産者の取り組みへの理解を深めていく」と締め括りました。

最終日には視察ツアーへ。開催地となった秋田県北で養豚を営むポークランドグループの農場へ行き、毎日出る大量の豚の糞尿を、BMW技術で環境負荷の少ない「良い水」や堆肥に変え活用している現場を見ました。

こうして、未だ完全な答えのないBMWの技術力を全国の仲間と共に高め続け、気候や社会情勢に左右されない「地域で循環する農業」を実現するために私たちのプロジェクトは続いていきます。

(文責:理事 鈴木 真奈美)



BMW技術で豚の糞尿を処理するための大きな槽を見学する参加者

理事会議事録抄

2024年11月5日(火)

▼2025年度第37回通常総代会の会場及び日程を承認した▼地域づくりボランティア応援補助金交付団体を承認した▼水俣展の仙台誘致に関する調査活動案を承認した▼2025年度GMナタネ自生調査企画を承認した▼鍋布団作りの会企画案を承認した▼「それでも、私は憎まない」パレスチナ問題上映会企画案を承認した▼「君の根は。大地再生にいとむ人びと」上映会企画案を承認した▼第2回総代懇談会企画案を承認した。

組織概要

(2024年10月分)

【組合員数】	17,075名
【供給高】	251,275千円
【一人実利用高】	5,015/週
【出資金】	1,353,687千円



●ネオニコや農薬を使わないことは、簡単なことではなく、消費者側が農業について学び、わがままを言わず、毎年の収穫に感謝していただければ良いのかなと思いました。(トライリンゴオーナー「収穫」参加者感想より)

始めよう！緩けよう！ 石けん生活

10月25日 石けん環境委員会
オープン定例会開催

「シャボン玉フォーラム」 参加報告会と石けんおはなしカフェ

10月の石けん環境委員会の定例会は9/28・29に神戸で行われた「シャボン玉フォーラム」ひょうご知つとお？！せつけんで守れるもん あるんやで！〜安全で豊かな環境を未来の子どもたちへ〜に参加した理事や委員さんからの報告会と、せつけんおはなしカフェとして開催し、組合員さんにも参加いただきました。

初めにシャボン玉フォーラムで行われた基調講演や個別報告、交流会、分科会をそれぞれ参加



他県や他生協の取り組みに刺激を受ける参加者

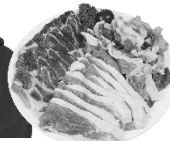
した方から報告していただきました。六甲のおいしい水を生み出す花崗岩の物語やBMW技術の身近な活用方法、森を次世代へつなぐ活動、せつけんメーカーの環境への取り組み、池を利用した太陽光発電所の物語、セルロースのフィルムパックの分解実験報告など盛りだくさんの内容で、グリーンコープひょうごさんの熱い気持ちが伝わってきました。

お茶とお菓子をいただきながらのおはなしカフェでは、参加者から布ナプキンの洗い方について質問があり、「アルカリウォッシュ少々を水に入れて、使用した布ナプキンをつけておくと血液がとれやすく、それでも残った場合は石けんで擦り洗うときれいになります」といったアドバイスが委員さんからありました。その他にも洗濯物の生乾き臭についてや酸素系漂白剤やアルカリウォッシュでの洗濯方法など、皆で情報交換をしながら楽しくお話できた会となりました。

理事 佐藤 あきな



私のオススメ商品



私のおすすめはあいあいファームのこめ豚セットです。あいあいファームわ・は・わ田尻では、豚舎に堆肥を敷き詰めたバイ

オベッドや、地域資源を有効利用した自家配合飼料を給餌するなど、豚がのびのびと健康に暮らせる環境づくりに取り組んでいます。社会福祉法人みんなの輪のスタッフ、利用者さんが愛情たっぷりに育てたこめ豚は、しっとりやわらかく甘みのある肉質が特徴です。毎週企画がありますので、日々の食卓にぜひご利用ください。
商品部 食肉加工課 渡邊豪人

編集後記

11月初め、「みんなと同じ鍋のものを食べよう」と、終業後にプチ芋煮会を開催しました。山形出身の理事の手ほどきを受けながら完成させたオールあいコープ食材の芋煮。職員の皆さんにたくさん食べてもらいました。まんま通信もごちそうでにぎわう年末年始。一年の締めくくりも始まりも、生産者から職員へ、職員から組合員へと手渡され届く美味しいもので幸せに過ごしたいものです。来年もあいコープを宜しく願いします。

理事 鈴木 真奈美

委員さん募集中！

あいコープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか？

お問い合わせ先
☎120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当：組合員事務局 鈴木・太田代)



組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00～17:00

年金相談・・・1/21(火) 社会保険労務士 清野道子氏
13:30～15:30

法律相談・・・1/14(火)、1/22(水) 弁護士 倉林千枝子氏
13:30～15:30

子ども相談・・・1/21(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏
10:00～12:00

*介護相談は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏)

▼随時受付可能です。各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2024年10月分)

ささえあい(保障)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	20件	利用延べ人数	3名
集団託児	2件	◆ケア時間	
慶弔・出産	17件		42.5時間
電話相談窓口	7件		
計	46件		



●現地の方々の話を直接うかがうことができありがたい企画でした。メディアからの情報ではわからない農家の方々の現状の過酷さに驚きました。(「戦禍のパレスチナを知ろう」学習会参加者感想より)

生産者

さんに

あい

に行こう！特別編

田尻エコ畜産協議会の巻

地域資源の活用と循環、アニマルウェルフェアに取り組む産直肉生産者

「肉まつり」に大集合！

大崎市田尻であいこプの産直牛肉を生産する4軒の農家と、豚肉を生産する社会福祉法人みんなの輪（あいあいファーム、ひなた農場）で構成される田尻エコ畜産協議会。10/19に日の出町センターで行われた「肉まつり」には、そのうち牛肉生産者2名（かりおん農場生産組合・小野寺実彦さん、渡邊壮樹さん）と豚肉生産者・みんなの輪から3名が参加。手ずからBBQを焼いて組合員と交流しました。



炭火で焼く産直肉のBBQで会場は大いに盛り上がりしました

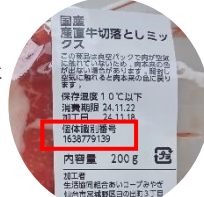
まんま通信での取り扱い是一緒なので、どちらのお肉が届くかはお楽しみ。食べてわかったら牛肉通！ですが、トレーサビリティが確保されているので、商品ラベルに印字されている「個体識別番号」から、家畜改良センターのホームページで産地等の情報を検索することができます（「牛 識別番号」で検索）。

あいこプの牛肉の産地には大きく2つがあり、ひとつは秋田県仙北市のチクテック、もうひとつが田尻エコ畜産協議会です。この二者、実は育てている牛の種類が違います。チクテックでは乳用牛の雌と黒毛和種の雄を交配して生まれた交雑種を、田尻エコ畜では「赤牛」と呼ばれる褐毛和種を育成しています。



肉まつりスタッフ集合！
前列右から渡邊さん、小野寺さん、みんなの輪（大内さん、仲野谷理事長、櫻田さん）

（右）赤で囲んだ部分が個体識別番号ですー



かりおん農場生産組合
小野寺 実彦さん

大崎市田尻で赤牛（褐毛和種）の肥育を行っています。赤牛は黒毛和牛に比べて肉にサシが入りにくく、しっかりした赤身の旨味が特徴です。赤牛は放牧に適した品種と言われ、飼料と運動により、いかに美味しい赤身を作るかにこだわって育てています。脂肪交雑（サシ）が少ないので健康志向の方にも喜ばれています。

あいこプとの付き合いは長く、もう30年以上。田尻エコ畜では、月に一度の定例会でお互いの情報を共有したり、農場の視察を行い、持続可能な畜産の実現に向けて日々研鑽を重ねています。

晴れの日やお祝いにはぜひ産直牛肉を召し上がってください。

今後の予定

1/22
水

第2回総代懇談会

場所/未定 時間/10:00~12:00（予定）
※後日、総代の皆様にご案内をお届けします

1/23
木

しおさい地区 フォーラム （商品学習会）

「タンポポ村のスモークサーモン」

場所/多賀城市山王地区公民館 調理室
時間/10:00~12:30（予定）
定員/20名 参加費/500円（予定） 締切/1/10（金）
※この企画はしおさい地区以外には案内チラシが入りません。
お問い合わせはお電話であいこプみやぎ組合員事務局へ
電話 0120-255-044 （平日9時~17時）

ガザの飢餓を止めろキャンペーン(APLA)

<https://apla.my.salesforce-sites.com/>

緊急支援

12/10まで

右のQR（寄付申し込みフォームから）
○申込者区分：個人
○支援の種類：今回のみの寄付
○寄付の使途：99 緊急支援
を選択し、寄付金額を入力してください



女川原発が止まってから

4981

（2024年10月28日 再稼働）

2022年4月号からカウントしてきた震災後の女川原発停止日数は、10/28の再稼働によって終了しました。私たちはこれからも、もう一度停止させ、廃炉に向かう運動を続けます。